

われもこゝろ

題字 高尾 欽士さん



芥川を自然豊かな川に～川の中には魚の道がある～

NPO 法人 芥川倶楽部 理事長

高槻市立自然博物館(あくあびあ芥川) 館長 山本 忠雄

芥川は北摂地域でも自然が豊かな川の一つです。芥川の上流から淀川合流地点までの間で見つかった魚は、過去50年で50種以上の記録があります。川には浅くて流れが速いところ、深くて水の流れが緩いところ、底がごつごつした大きな石、砂地、泥っぼいところなど、いろいろな環境があり、魚の種類によって好む環境が異なります。種類が多いということは、それだけ多様な環境が芥川にあるということです。

芥川では、「さまざまな魚たちが段差をのぼり自由に移動ができるように」を目指して、芥川で活動する市民・研究者・大阪府・高槻市・博物館が力を合わせて芥川の魚みち(一般的な名称は魚道(ぎょどう))をつくってきました。

2019年には、淀川合流点から摂津峡までの間にある全ての高い段差に魚みちが整備され、多い年には1万尾もの天然アユが大阪湾から淀川を通して摂津峡近くの塚脇橋上流までのぼってくるようになりました。

芥川がライフワークに

私は土木工学科を卒業して建設コンサルタントで多自然川づくり(川全体の自然の営みを視野に入れた川づくり)、市民参加の川づくりなどに携わってきました。「1年365日働けますか」というCMが流行ったころです。仕事は忙しくて毎日帰りは夜遅くという生活でしたが、とにかく休みにになると自分が設計した水辺環境がどう変わっていくのか、川を歩いて確認しました。

そのうち生き物の事がもっと知りたくなってきました。趣味の山登りが、いつしか川歩きになりました。もっと川の生物のことを知りたいと思うようになった頃、地元の高槻に芥川倶楽部ができたことを知って仲間に入れてもらいました。

そろそろ次の人生を考えようと思っていた時に、NPO 法人芥川倶楽部が指定管理で運営している高槻市立自然博物館(あくあびあ芥川)で働くことになりました。これが芥川にのめり込むきっかけになりました。職場



環境が一変し、とにかく川に触れることができる時間が多くとれるようになったのです。

芥川倶楽部での活動

淀川からのぼってきたアユが、最下流にある高い段差(芥川大堰)をのぼれずにいる。「このアユたちを上流の摂津峡までのぼらせたい!」と、同じ思いを持つ市民団体とアドバイザー、世話役の大阪府・高槻市からなる「芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク~愛称:芥川倶楽部」が発足しました。

市民と行政による最初の協働作業は、土嚢を使った手作りの実験魚みちづくりです。この魚みちを念願のアユがのぼりました。これで弾みがついて恒久的な魚みちづくりへと進みました。2011年には芥川大堰に魚みちができて、アユが一気に町中までのぼって来ました。

2014年から始まった高槻市の「芥川かわまちづくり事業」を契機に、本格的に芥川倶楽部が魚みちの設計にも関わっていける体制ができました。それまでお互いにその立場や役割を尊重しながらやってきて信頼関係が築かれている、私たちが川を良く知り、魚みちにも精通していることが認められたためです。計画段階から参画することで、“やる気”が生まれ“人も育ちます”。

こだわりの技!河原の石で作った魚みち

その中でも、特にこだわってつくった“石の魚みち”が、あくあぴあの近くにあります。石の魚みちは行政も施工業者も経験がないので、博物館と市民、研究者が一緒になって石の配置を工夫しました。この魚みちは、現場での石の組み方によって魚がのぼれるかどうかが決まります。業者にわかりやすいよう

に石ころ1つ1つを全部手描きし、大阪府に対して施工手順も提案しました。すごいプレッシャーでしたが、上手くいった時の喜びも大きいです。仲間と飲む酒もうまい!!!



川原の石で作った魚みち

市民で続けた効果検証

人間の考えが本当に魚たちのためになったのか、魚みちの上流側に定置網を設置し、のぼってくるすべての魚を捕まえて、種類と数を調べました。調査するのは私達高齢者で、真夏は過酷です!昼はあまりのぼらないので、夕方に網を設置し、翌日の朝に引き上げると、なんと8種90尾以上の魚類に加えモクズガニものぼっていました。魚たちはこんなに移動しているんですね。感動しました。その後も調査を続け、この付近に生息している魚種の、すべてがのぼっていることが分かりました。

「川ガキ」から後継者へ

川の魚より、川で遊ぶ「川ガキ」こそが絶滅危惧種だという声もよく聞きます。小さいころから川に親しむ川ガキを育成する。そこから将来の芥川倶楽部を担う人材を育てたい。との思いから、川遊びが好きな人たちが集まって、毎月、魚の調査や、魚みちのメンテナンスなどの活動を目的とした“芥川たのしみ隊”を7年前から行っています。ようやく小学生から参加していた子どもが大学生に



なり、次の人材が育ちつつあります。今後が楽しみです。



石の魚みちで“はいポーズ”
(芥川たのしみ隊)

われ、障害者手帳ももらっていますが、まだまだ元気に活動しています。

第二の人生って楽しい！

こんな活動の場を与えてもらって感謝です。

注)川で魚を捕まえたり、仲間と競い合って泳いでみたり、時には岸辺の岩から川へ飛び込んでみたり。時間が経つのを忘れて日が暮れるまで川辺で遊んでいる元気な子どもたち。そんな子ども達を、親しみをこめて「川ガキ」と呼んでいます。

最後に

私はこれまで何度も手術を経験しました。
主治医からは「切られの与三郎」やな、と言



<p>◆ 米不足 秋の実り 期待する K</p>	<p>◆ 物価高 口に入らぬ 秋の実り Y</p>	<p>◆ 異常から 日常となる 猛暑かな K</p>	<p>◆ われもこう 移り行く日々 秋を知る K</p>	<p>ご利用者とよむ 川柳</p>	<p>◆ 御座候 夢に出てくる食べたいな O</p>	<p>◆ 今の時代 マスク離せぬあらかくし M</p>	<p>◆ あやとりをする老母(かあ)さんの目は少女 M</p>	<p>◆ 老母(かあ)さんとゆつくり歩く桜(はな)の下 M</p>

地域交流センター あすなろ



篠笛の響きコンサート 竹取物語

2024年11月1日(金) 開演 14:30 (開場14:00)
高槻城公園芸術文化劇場(太陽ファルマテックホール)



篠笛 井上真実

チケット販売中

* 全席自由席
前売り 2,500 円
当日 3,000 円

一部 「篠笛の響きコンサート」～晩秋の調べ～

「童話/叙情歌」を中心に日本の伝統文化楽器「篠笛」の音色で癒しと安らぎのひとときをお届けいたします。

二部 「竹取物語」～かぐや姫の悲しみ～

日本最古のお話「竹取物語」の世界。かぐや姫の心を謡と篠笛で表現いたします。

*お問い合わせ 地域交流センターあすなろまで

小規模多機能型居宅介護 あすなろ



みやこ保育園児との交流会 8月6日

事業所
だより

室内にいても外の暑さを感じる天気の良い日に、近くの小規模保育施設みやこ保育園の子どもたちが、あすなろへ遊びに来られました。

第一回目の交流会は紙芝居の鑑賞会。「昭和の生活」をテーマに紙芝居が始まります。0歳から2歳の子どもたちは紙芝居の周りを自由に動きまわり、その姿に紙芝居そっちのけで釘付けになっているご利用者、昭和

時代に使われていた黒電話の実物が出てくると「そうそう、この電話使ってた」と懐かしむご利用者もいました。昔の遊びに演者が『月光仮面は誰でしょう』を歌いだすと利用者みなさんも自然と口ずさみ、歌声に合わせて子どもたちが踊り、この日一番の盛り上がりになりました。短い時間でしたが笑顔がいっぱいの素敵な交流会になりました。(W)





くらし創造の家 朋(とも) 小規模多機能型居宅介護



暑い！暑い！

良いのか悪いのか日当たり良好の朋…。そんな日に、あるご利用者の畑から収穫したスイカをいただきました。ご利用者のお顔より大きいスイカに、皆さんもスタッフもテンションが上がります！半分に切って…お顔と比べたり、持つのに挑戦したりしていよいよ皆さんのところへ。

「初もんだわ」「ずっと食べたかったのよ」という話をしながら一口パクリ。「美味しい～」「甘い！」と皆さん食べる食べる！普段はあまり食事を召し上がらない方もおかわりされました。暑～い日に旬のスイカで皆さん満足され、スタッフもうれしくなりました。ありがとうございました。



訪問介護



私は資格を取り、訪問介護の仕事は何も知らないままこの職場につきました。介護経験はあったものの、先輩方に教えてもらいながら葛藤する日々。この仕事にはケア計画書はあるが、実際に現場に入ってわかることや利用者の心身状態によっては臨機応変に対応する必要もある。ある日、いつも通り訪問するとご利用者がベッドで倒れている。いつもと違うことに気付き、すぐに変化を探し事務所に連絡。結果、救急車を呼ぶことになったが、住所、服用している薬、かかりつけ医、いつも履いている靴、鍵の場所などスピードと冷静さを保ちながら探さないといけない。そのご利用者と常にコミュニケーションを取り情報を知らないとスムーズにはいかない。事務所と救急隊員とワーカーの連携が必要である。この仕事は毎回何が起こるかかわからない。何年経ってもピンポンを押す前に一度深呼吸をしている。学んだこと、それは“人との会話に常にヒントが隠されている”ということ。毎日、たくさんの方とお話をして、いろいろ教わり、関わりながら、“その時間を楽しい時間として過ごしてほしい”という気持ちを、今後も変わらず持ちながらケアしていきたい。(M)



「高槻ライフケア協会と言えば、あのロゴマークの・・・」とすぐにわかってもらうために！

京都芸術大学プロダクトデザイン学科学生との コラボレーションによる当法人のロゴマーク決定！



佐藤氏



井原氏

▼京都芸術大学プロダクトデザイン学科 井原朱氏・佐藤敦迪氏のプレゼンテーションより

●高槻ライフケア協会の立ち位置

親しみやすい

安心を提供するサポートのお仕事にはやはり親しみやすさが重要だと考えます。パツと目に入るものに親しみやすさを取り入れることで利用者や職員の方を映す鏡の役割にもなります。

普遍性

ケアが身近になる可能性は誰も抱えているものです。生きていれば必ずどこかで通ずるものだと思います。普遍的な要素を取り入れることにしました。

- ①シンプルに 「一目見てわかる」視認性の高さ
- ②独自性 高槻ライフケア協会の企業理念や採用コンセプトの考え方を組み込むことでここにしかない独自性を。抽象的な造形で簡潔な表現を！
- ③イメージ 「介護される人と介護する人が笑顔で過ごせる法人」
「自己決定や権利擁護が日常的になる社会を作る」

●お互いがいてこそその重なり

高槻ライフケア協会が思いやりの矢印が一方だけでなく互いを向いている団体であることをロゴマークに落とし込みたいと考えていました。歩幅は違ったとしても進んでいく距離は同じ。手を取り合うような双方の重なりこそ高槻ライフケア協会の本質なのではないかと思い、その様子をロゴマークにしました。

●最後に

このような経験ができたこと、二人とも大変嬉しく思います。参加させていただきありがとうございました。

*一年かけたロゴ制作過程の概要は、後日、ホームページにアップ予定です。

研修実施報告 第3号(特定の者対象)喀痰吸引等研修基本研修

7月13日(土)・14日(日)



第3号喀痰吸引等研修基本研修を実施しました。コロナ禍で休止していたこともあり、基本研修は4年振りの開催となりました。重度障がい児・者等の地域生活等に関する講義や喀痰吸引等を必要とする重度障がい児・者等の障害及び支援に関する講義、緊急時の対応及び危険防止に関する講義、喀痰吸引等に関する演習です。ある受講生は、「医療的ケアは怖いイメージをもっていましたが、研修を受講してその怖さが整理でき、何に注意すればよいか

がわかりました。」という感想でした。今後、実地研修を受講し、重度のご利用者へのケアにも対応できるようご活躍に期待しています。

腰痛予防セミナー 7月22日(月)

パーソナルトレーニングジム LOAFER の上川達矢氏をお迎えして、法人職員に対して「腰痛予防セミナー」のご講義をいただきました。痛みの原因は生活の中にあり、姿勢や動き癖、動きの量、疲労重力を見直すということです。まずは、相手に自分の立位をチェックしてもらいました。椅子から立ち上がる時、「股関節を折る」という講師の言葉に新鮮さを感じました。毎日の生活での動きを意識することが腰痛を予防することに繋がると理解できました。



高齢者の嚥下機能研修 9月11日(水)



訪問看護ステーションソレイユの稲田陽子氏に高齢者の嚥下や食事介助の際の注意点についてご講義いただきました。嚥下機能低下による誤嚥性肺炎の種類や誤嚥性肺炎を防ぐ方法として食べ物とポジショニングの基本的な講義内容の後、事前質問に回答する形の研修でした。円背の方のポジショニングや体力低下がある方にとっては「食べることは疲れること」

との認識を持つ、いわゆる遊び食べがある方については、気分転換に別のお話をして、「そろそろご飯にしましょうか」とアプローチしてみるなど、具体的な実践方法も教わりました。他職種とも連携し、おいしく楽しい食事が提供できるように工夫を重ねていきます。



サービス提供実績報告(2024年4月～8月)

《訪問介護》

利用者数	223 人
利用時間	2,954.5 時間
生活援助	592.5 時間
身体介護	1,044.0 時間
身体生活	1,318.0 時間

《介護予防訪問介護》

利用者数	144 人
利用回数	1,141 回

《ケアワーカー派遣サービス》

利用者数	60 人
利用時間	113.5 時間
家事援助	95.0 時間
身体介護	18.5 時間

《小規模多機能型居宅介護》登録人数平均

くらし創造の家 朋(とも)	19.2 人
あすなる	20.8 人

《障害福祉・居宅介護》

利用者数	379 人
利用時間	4,878.3 時間
家事援助	2,347.3 時間
身体介護	2,190.0 時間
通院介助	341.0 時間

《重度訪問介護》

利用者数	10 人
利用時間	655.5 時間

《同行援護》

利用者数	137 人
利用時間	1,683.0 時間

《移動支援》

利用者数	251 人
利用時間	2,358.0 時間

《短時間デイサービス》利用人数平均

地域交流センターあすなる	0 人
--------------	-----



編集後記



毎日暑いですね。毎年、年齢を重ねるたびに夏が堪えます。令和の米騒動が起こっています。我が家もその騒動に巻き込まれています。夫や、高校生の娘のお弁当もあり、お米は毎日必要です。そんな中、お米屋さんでお米を購入する事ができました。もちろん、購入制限がかかっていました。スーパーで買うよりも、『なにこれ、かなり美味しい…！』と大好評！更にお米の消費が加速し困っています。早く、お米を気兼ねなく購入できたらいいのになあ。(K)

社会福祉法人高槻ライフケア協会

〒569-0806 高槻市明田町5番7号 TEL(072) 683-4945 <http://tlca.info/>